

国語科学習指導案

日 時 平成21年10月23日(金)
学 級 1年B組 男子21名 女子16名 計37名
指導者 千葉 理恵

1. 単元名 「古典との出会い」 蓬萊の玉の枝「竹取物語」から
2. 単元について

(1) 教材観

本単元「古典との出会い」は「いろは歌」・「竹取物語」・「故事成語」により構成され、「古典の文章に出会い、昔の人のものの見方や考え方にふれ、現代とのつながりを考える」ことを目標としている。

本教材「竹取物語」は「かぐや姫」の物語として、絵本や紙芝居などを通して広く知られている作品である。しかし、その展開は古代SF物語ともいえるような展開である。それでいて、五人の貴公子の物語は現実的であり、人間の欲望、ずるがしこさ、安直さが語られていて、現代にも通じるところである。古典への興味・関心を抱かせ、今後の古典学習の基礎作りとしては格好の学習材である。また、原文と訳文が上下段にわけられ照らし合わせながら読むことができ、学習しやすいものとなっている。さらに、本文から当時の人々のものの見方や考え方を読み取ることができ、現代との相違点・共通点について考えることによって、現代に生きる私たち自身を発見することにもつながるものと考えられる。

(2) 生徒観

課題に対して積極的に取り組もうとする生徒が男子に多い。また、新しいことを学ぼうとする意欲が感じられる生徒が多い。中学校に入学して初めての教材「野原はうたう」では、教科書に紹介された四編の詩の朗読を行った。そこでは、詩の作者になりきり工夫して朗読することを目標とした。しかし、声をしっかり出して読むことはほとんどの生徒ができたが、なりきって工夫して読むというところまでは至らなかった。文章や詩の良さを味わったり、登場人物の心情をとらえ表現するところまで達していない現状である。

古文に対しはとまどいを感じている生徒が多い。まずは、古文に読み慣れることに重点を置き、内容の読み取りを通して作品に登場する人物の心情を考えたり、作品に込めた作者の思いを想像させていきたい。そのことから、昔の人も現代に生きる私たちと同じように考え暮らしていたのだと考え、現代とのつながりを感じさせ、古典への興味・関心を高めていきたい。

家庭学習への取り組みについては、漢字練習や音読等には7割くらいの生徒が取り組んでくるが、自分の考えを書いたりする課題に対しては積極的には取り組めてはいない状況である。

(3) 指導観

生徒たちは小学校で古典短歌を学習しているが、本格的な古典学習はこの教材が初めてである。

本教材「竹取物語」では歴史的仮名づかいや古文独特の言い回しなど、古文特有のリズムを意識して音読できるようにさせたい。そのために、音読を繰り返し練習させ、古文の読み方の基礎をしっかりと定着させたい。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに正しく直して読めること、古文のリズムを意識して読めること、古文と現代の語の意味の違いを理解することに気を付けて指導していきたい。さらに、くらもちの皇子の冒険談を読み、教科書には掲載されていない他の四人の貴公子と比較することで、昔の人のものの見方や考え方をについて自分の考えを広げられるような学習を展開していきたい。

3. 単元の目標

国語への関心・意欲・態度	・興味・関心を持って、古典の文章を読もうとしている。
読むこと	・物語の展開やあらすじを理解するとともに、古人のものの見方や考え方を読み取りながら、自分のものの見方や考え方を広げることができる。
言語事項	・古文独特の歴史的仮名づかいや現代にはない言葉の意味の違いに注意して音読することができる。 ・文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読

	して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に 触れることができる。 ・古典には様々な種類の作品があることを知る。
--	---

4. 指導計画と観点別評価の重点領域

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語事項
・古典作品に興味・関心を持ち、昔の物語を読もうとしている。	・現代語訳を参考に物語のあらすじをつかみ、内容を理解しながら古文を読むことができる。	・歴史的仮名づかいを現代仮名づかいに直したり、古語の意味や言葉遣いを理解し、正確に古文を読む。

時間	学習内容 (重点目標)	主な学習活動	観点別評価の重点領域					家庭学習との 関わり	
			関 心	話 聞	書 く	読 む	言 語		
1	「竹取物語」の内容を大まかにつかむ。 「竹取物語」の冒頭文を読む。 ・古典の文章に対する興味や関心をもつ。	・「かぐや姫」と「竹取物語」の関係を理解する。 ・「竹取物語」の大まかな内容をつかむ。 ・五人の貴公子のかぐや姫への求婚について知る。 ・「竹取物語」の冒頭文を音読する。	○				○	○	・音読練習 ・石作りの皇子の話を読み感想を持つ
1	「竹取物語」を読み歴史的仮名づかいについて知る ・古文のリズムや歴史的仮名遣いに関心を持ち、進んで音読に取り組もうとしている。	・「竹取物語」の冒頭文から古文の特徴に気づく。 ・歴史的仮名遣いについて知る。	○					○	・音読練習 ・右大臣あべのみうしの話を読み感想を持つ ・大納言大伴のみゆきの話を読み感想を持つ ・課題の確認
1	「竹取物語」の冒頭文から古語の意味の違いを理解する。 ・古語の意味や言葉遣いを理解し、物語の内容のあらましをとらえる。	・古文と現代文を交互に読み、内容を理解する。					○	○	・音読練習 ・中納言いそのかみのまろたりの話を読み感想を持つ ・課題の確認
1	くらもちの皇子の冒険談 ・古文のリズムや歴史的仮名遣いに関心を持ち、進んで音読に取り組もうとしている。 ・古語の意味や言葉遣いを理解し、	・くらもちの皇子の冒険談を音読する。 ・古文と現代文を交互に読み、内容を理解する。					○	○	・音読練習 ・視写

	物語の内容のあらましをとらえている。						
1 本時	くらもちの皇子の人物像に迫る。 ・「竹取物語」に表れている古人のものの見方や考え方を読み取り、それに対する自分の	・くらもちの皇子と四人の貴公子との比較から、くらもちの皇子の人物像について考える。	○			○	・音読練習
1	「不死の薬」の場面 ・古文のリズムや歴史的仮名遣いに関心を持ち、進んで音読に取り組もうとしている。 ・古語の意味や言葉遣いを理解し、物語の内容のあらましをとらえている。 まとめ ・古典には様々な種類の作品があることを知る。	・最終場面を音読練習する。 ・古文と現代文を交互に読み、内容を理解する。 ・全体を読み返し、「蓬莱の玉の枝」についての感想を交換し合う。 ・「御伽草子」「今昔物語」など、語りつがれてきた話をもとに作られた物語を読む。	○			○ ○	・音読練習 ・視写

5. 本時について

(1) 本時の目標

- ・くらもちの皇子の冒険談を読んで、そこに表れたくらもちの皇子が嘘つきでずるがしこい人物であるということを考えることができる。

(2) 本時の構想

前時までのところで、原文の音読や歴史的仮名遣いや古文の特徴などについて学習してきている。音読については、暗唱をめざし、練習に積極的に取り組んでいる生徒が多い。しかし、言葉中心の学習だったために「竹取物語」の内容的なおもしろさを感じるまでに十分とは言えないと考える。

そこで本時は、四人の貴公子の人物像について話し合いイメージを広げることにより、くらもちの皇子の嘘のうまさや今も昔も変わらない人間の姿を読み取り、古典を身近なものに感じさせたいと考える。

(3) 家庭学習と授業のサイクル化について

古文とともに現代語訳が付けられているものの、歴史的仮名づかいや古語の意味などすぐには理解できない言葉が多いため、生徒は学習に対する抵抗感が強いものと思われる。

そのため、音読練習を繰り返し行いできるだけ抵抗感を少なくしていきたいと考え、音読練習を課題とした。また、今回は、教科書にはないくらもちの皇子以外の四人の貴公子について描かれている現代語訳文を読ませ、その人物について感じたことを簡単にまとめてくることも課題として出し、それを基に授業の中でそれぞれの感想を発表させ、本時の授業の内容へとつなげていきたい。

(4) 本時の評価の観点と具体的評価規準

観 点	A	B	努力を要する生徒への手だて
国語への関心	古文に興味・関心をも	古文に興味・関心をも	繰り返し音読をさせ、

・意欲・態度	ち、古典のおもしろさや価値に気づいている。	ち、古典のおもしろさに気づいている。	慣れさせるとともに、古文のなかに現代と共通するものはないか考えさせる。
読む能力	昔の人のものの見方や考え方を理解し、現代に生きる自分との共通点や相違点を考えることができる。	昔の人のものの見方や考え方を理解し、現代に生きる自分と比較することができる。	本文や資料から自分が感じたことを記入させ、他の人の考えと比較してみるように促す。
言語事項	歴史的仮名遣いや古語の意味など、現代語との違いを確実に理解することができる。古文独特の言い回しに注意して、音読・暗唱することができる。	歴史的仮名遣いや古語の意味など、現代語との違いを理解することができる。古文独特の言い回しに注意して音読することができる。	歴史的仮名遣いの原則を確認し、短い単語から練習させる。現代語訳で意味を確認させる。

(5) 展開

本時の評価＝○ 家庭学習を生かした働きかけ＝●

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価の観点
導入 10	1 家庭学習の確認	1 四人の貴公子が難問をどのように解決しようしたのかを確認する。	●家庭学習としてくらの皇子以外の四人の貴公子について描かれている現代語訳文を読み感想をまとめたことを確認する。 ・くらの皇子の冒険談から、くらの皇子の人物像について考えていくことを確認する。
	2 課題の確認	2 課題をつかむ。 くらの皇子はどのような人物なのか考えよう。	
展開 35	3 音読	・「くらの皇子」の冒険談を音読する。	●全員で音読する。 ○関心・意欲・態度 大きな声で正確に音読ができる。 ・五人の貴公子の共通点や他の貴公子とくらの皇子との相違点を考えさせる。 ○読む くらの皇子がどのような人物なのかまとめることができる。他の四人と比べて嘘つきでない人物であるということをもとに書いていく。 ・くらの皇子の人物像について振り返りながら、現代人に通じるものはないか問いかける。
	4 くらの皇子と四人の貴公子の比較	4 くらの皇子と四人の貴公子の行動を比較し、くらの皇子がどのような人物なのか考える。	
	5 くらの皇子の人物像について考えを深める。	5 くらの皇子の生き方を通して現代の私たちの生き方に通じることはないか考える。	
終末 5	6 まとめ	6 本時のまとめを行う。	・本時の学習をもとに、わかったことや考えたことについてまとめさせる。 ・次時は「不死の薬」の場面を読み、内容のあらましをとらえることを知らせる。
	7 次時の予告と家庭学習の確認	7 次時の学習内容を確認する。家庭学習の内容を確認する。	